

## 第2回にしお男女共同参画市民会議 議事録

日時	平成29年12月1日(金) 午後2時～						
場所	西尾市役所 5階 52会議室						
委員	出席者	大嶋信吾	加藤晴子	内藤康典	石川英子	鈴木清子	渡邊美恵子
	欠席者	浅井聡美	川井智実	柳本祐加子	順不同敬称略		
事務局	菅沼課長補佐、木下主査、黒野主事						
傍聴人	0人						

あいさつ・・・菅沼課長補佐

※会議公開に関する件・・・会議は公開である旨報告（平成25年6月28日の会議で決定）

### 1 委員の委嘱について

### 2 議題

- (1) 各種調査について
- (2) 調査結果報告書について
- (3) 今後のスケジュールについて

### 3 その他

#### —会議概要—

#### 1 委員の委嘱について

<各委員の自己紹介>

<にしお男女共同参画市民会議設置要綱について説明>

<会長、副会長の事務局案提示・決定>

- ・会長：加藤晴子委員
- ・副会長：渡邊美恵子委員

#### 2 議題

##### (1) 各種調査について

<事務局より各種調査票実施概要について説明>

○市民意識調査、企業調査、若年者調査の3つの調査票に共通した点

- ・女性活躍推進法に基づく市町村推進計画として、第2次プランを位置づけるため、女性の活躍推進に関する質問を新規で設置した点
- ・市民意識調査および若年者調査において、性同一性障害の方々や、性同一性障害特措法の存在する現状を踏まえ、「性別に配慮した」調査票になるよう作成した点

○市民意識調査票の特徴

- ・「地域活動について」の項目の新設置

→町内会など地域活動等の中において、意思決定の場への女性の参画促進と男女共同参画意識の浸透という観点から。

- ・「防災・災害時対策について」の項目の新設置

→「防災・減災対策」が本市の最重点施策であること、また、第2次プランの基本目標6にも掲げられていることから。

#### ○企業調査票の特徴

- ・市内のファミリー・フレンドリー企業及び、女性の活躍促進宣言を実施している事業所50社を対象。
- ・女性の活躍促進の実態等を把握する点に視点を置き、質問を設定。
- ・市民意識調査同様、「防災や災害時対策の取組について」の項目を新設。

#### ○若年者調査票の特徴

- ・子どもたちへの啓発、将来の働き方や家庭生活についての子どもの考えを把握することを目的とし、今回、若年者調査を初めて実施。
- ・市内4つの県立高校と1つの中学校の生徒を対象に調査を実施（8月第1回市民会議意見より）
- ・高校生向け調査票は、協力していただける高校側と、また、中学生用の調査票は、市教育委員会学校教育課と協議を重ね内容を作成。

#### ○職員調査票の特徴（12月中旬実施予定）

- ・特別職、医療職、再任用職員、嘱託職員、臨時職員、出張・休職等で不在の職員を除き、市役所に勤務している職員約1,165名を対象。
- ・他の調査表同様、女性の活躍に関する質問やジェンダーに配慮した内容。
- ・市職員が、行政サービスの中で多様性を考えるきっかけとなるよう、「LGBT等性的少数者への行政としての対応」についての質問を新設。

## （2）調査結果報告書について

### <ジャパン総研江口氏より説明>

#### <柳本顧問による補足>

##### （柳本顧問）

中高生に対する調査の結果について。1点目、中高生に対する調査と市民意識調査の質問で重なる所を相互参照して、年代によって意識が変わっているかどうか、西尾市では中高校生といったティーンエイジャーの時から市民意識調査によって出る結果が同じような認識を持っているのか、だんだん変化してそうなるのかを見ることも必要である。それによって子どもたちに対してどういった男女共同参画の教育が必要なのかがわかる。2点目は暴力の問題について。私が非常に注目したのは、中学生の女生徒たちの中で、ずっと今いる地域で暮らしたいと考えている人が5分の1いるという事である。また、親の介護が必要な時に戻ってきたいという意見もみられる。定住志向は女の子の方が多いのかと感じた。この年代はこれからの西尾市を支えていく人たちで

あり、こういう定住志向、戻ってくる志向を見たらうで男女共同参画の視点を入れつつ、どんな将来のまちづくりをしていくかが必要になると考える。

**(川井委員)**

率直な感想だが、学校現場は男女平等の色が濃く、教職員自身も企業に比べると男女平等を感じながら仕事をし、子どもたちもそれを感じているかと思い、今回のデータに驚きを感じている。想像以上に子どもたちは社会に興味を持ち、そういう事まで目を向けていることにアンケート結果を見て驚きだった。

**(鈴木委員)**

町内会について。町内会の役員を選ぶ事が難しい。男性が町内会長、副会長、役員3役と決まっており、班長会や定例会に出るのは全員女性である。それは、男性がたまに班長会へ行くと次の町内会長に当たるからいやだという理由があるようだ。そういう現象があり、町内会の中でも男性と女性の立ち位置が差別化されているように感じる。

**(内藤委員)**

人手不足を解消するために女性役職を増やさないと回っていかず、今も学生は女性の優秀な方がどんどん採用されている。女性を伸ばしたい気持ちはある。しかし、若いうちは頑張ってくれるが、結婚すると家庭を優先してしまう。男性が家に入り女性が仕事を続ける家はほとんどないように感じる。役職になってほしいといっても家庭を選んでしまう女性が圧倒的に多く、こちらの思いとミスマッチしている。

**(加藤会長)**

それはなぜかというところまで掘り下げないといけないのでは。

**(内藤委員)**

役職者は残業が多いというイメージがあり、実際にそうかもしれないが、家庭を持っている人には協力している。こちらが管理職になってほしいという女性は多くいるが、辞退されてしまうのが現状である。

**(加藤会長)**

家庭生活も合わせて男女平等にならないと、介護の問題も含めて、努力だけで解決するのは無理だと思う。特に金融関係は女性に合っていると思うので、ぜひ育てていただけると嬉しい。また、近頃の若い女性で働き続けようと思う人は育児や家事を手伝うという意識の男性は選ばず、家事もシェアするという考え方の人でないと選ばない、ということである。

**(鈴木委員)**

子どもを母親がしっかりみてやる時期は、仕事以上に大事な事かと思う。家庭を守ることを優先した主婦の方が自分としては大事かと思う。

**(浅井委員)**

私たちの時はそんなに多く学校の行事にお父さんが来ていたと感じなかったもので、最近の学校行事の様子を見ると、家庭に関しては男女平等という考えが少しずつ進んでいるように思える。この秋は防災訓練が多く、防災訓練に3か所くらい参加した。ほとんど男性で、女性は少なかった。防災は女性より男性が主体となり、男性からは女性は炊き出しをしていればいいと言われる事もある。炊き出しが女性の仕事ではないとはっきり言っている。炊き出しは男性もできるし、災害時は食べられないことが一番困るからみんなでやろうと言っている。防災に関してはこのア

ンケートを見てもそういう意識があるのかと思う。

(柳本委員)

女性は炊き出しを指示されるということだが、男性は何をしているのだろうか。女性に頼むことは明確にあるように思えるが、男性は主に何をするのか知りたい。

(浅井委員)

計画をするとか、場所を分けることなどをしてほしいようである。実は女性がそれをしたい。小さい子どもや赤ちゃんがいたり、妊婦さんがいたりするので、そういう事を決めるのは女性の方が合っている。まだまだ防災について、区長などトップの考え方だと、女性は炊き出しでいいと思っているようだが、東日本大震災時も一番活躍していた地域は全員女性だったと聞いた。女性を入れてほしいと手を挙げている私たち仲間は、計画を立てる時からこまめに顔を出しておかないと入れてもらえないので、入れてくださいと訴えている。

(柳本委員)

家庭を守るという言い方をすると保守的と言われるかもしれないが、見方を変えると弱い人たちを助けるという、今の流行りの言葉を使うと「ケア」である。人の面倒を見られる事もひとつの能力であり、浅井委員の防災訓練もまさにそれだ。災害時は全員弱い人達である。

(渡邊副会長)

先日、前任校の学芸会を見に行った。4年生が「男は損、女は損」という劇をしていた。女の子は運動会後のタスキをたたむ仕事をしながら、先生はすぐこういう細かい仕事を女の子に頼むと言ってブツブツ言っていた。男の子は重たいマットや跳び箱の片づけを男だからという理由で頼まれると言って運んでいる。「こんなのやめた。」と男の子がタスキをたたみ、女の子が重いものを運ぶという役割を交代する。しかし、力仕事が好きな女の子もいれば、そうではない女の子もいて、細かい事が好きな男の子もいればそうではない男の子もいる。うまくいかず、自分たちができる事をすればいいという結論に達した劇だった。それをコミカルにしていって、面白かった。保護者の方たちにとっても発見があり、学校でそういう事を取り入れていくのもいいかを感じる。先生たちもそういう事を考え教育の中に入れていかねばならないと思うし、演じることにより子どもたちの意識が変わっていけばいいと思う。

### (3) 今後のスケジュールについて

#### <事務局より説明>

- ・各種調査結果をまとめた「調査結果報告書(案)」は、今後、内容の追加・修正を行う。
- ・12月中旬～下旬…職員意識調査の実施(市職員を対象とした意識調査)  
団体調査の実施(市内で活動する市民活動団体等を対象とした意識調査)
- ・1月…企業・団体への面談・聞き取り調査の実施  
関係する17課を対象に、第2次プランに掲げた施策の進捗状況調査を実施
- ・1月後半～2月…団体調査や庁内の進捗状況調査の結果のとりまとめを行い、第2次プラン改訂版の課題の洗い出し、プランの方向性や具体的な施策を検討
- ・3月…庁内の推進委員会、第3回目の市民会議の開催

### 3 その他

#### <加藤会長より情報提供>

(加藤会長)

日本の男女平等が世界で 114 位、G 7 だと最下位という記事である。女性活躍は男性が変わらないといけないということだし、制度だけではなく意識の改革が必要である。

#### <柳本顧問より情報提供>

(柳本委員)

人類の農業の基礎をつくった時代、1 万年くらい前の農業革命の時代の女性と思われる遺骨から分析をしたところ、女性は力仕事に向いていないということを覆すような結果がでた。その女性の骨の状況を見ると、力仕事をしていた形跡がみられる。そこから農業の基礎をつくったのが女性たちの大いなる労働があったのではないかと強く推測されるというイギリスからのニュースである。南アジアやアフリカでは女性が頭の上にツボを乗せて水や重い荷物を運んでいる。男性は何をしているのかというと、たいてい木陰に集ってコーヒーを飲んだり、カードやマーじゃんなどの賭け事をしたりしているという。考えてみると女性は妊娠すると 5 キロ近くの子どもをお腹に入れて自分の体も重くなる。ベビーカーを持って電車に乗る女性がいるが、ベビーカーを持って、ベビーカーに乗らない子を背中にくくりつけたり、片手で持って、かばんも持っている。さて女性に力仕事が向かないと言えるかと私は思う。そういう生活実態や遺骨からすると、もしかすると女性たちは力仕事に向かないと思わされていた結果の話ではないか。力仕事の方がお金になるのか尊敬されるのか、そこを男性が独占しようとしており、単に思い込まされているだけかもしれない。先程の男は損、女は損という劇と同じような話だったかと思う。